



加西をめぐり、時代を^{かけ}翔る。

■レクチャー公演「狂言でござる」	p2
■こども狂言塾	p3
■梅原猛さんによる新作能	p3
■能・狂言とは	p3
■播磨国風土記 1300 年祭プレイベント	p4
■平成 25 年度の主な取り組み	p4

加西は 播磨国風土記 1300年



「播磨国風土記」は、奈良時代（715 年頃）に編纂された日本最古の地誌であり、播磨地域にある地名の由来や土地の肥沃さ、伝承などが記述されています。その中には、根日女伝承の舞台である玉丘古墳（写真）をはじめ、加西市に関わることも多数記述されています。平成 27 年（2015 年）に編纂 1300 年を迎えるのに合わせ、加西市では播磨国風土記 1300 年記念事業を平成 25 年度から実施しています。



◀とんち話でも有名な、狂言の代表的な作品「附子(ぶす)」を演じる野村萬齋さん(右)と高野和憲さん。高野さんは「こども狂言塾」の講師です。

▼約千人の超満員となった客席は、野村さんらが滑稽な演技をするたびに、笑い声に包まれました。



■レクチャー公演「狂言でござる」(野村萬齋^{のむらまんさい}&藤田六郎兵衛^{ふじたるくろびょうえ})を開催

4月29日、狂言に親しみを持っていただき、来年5月の播磨国風土記1300年祭を皆さんと共に盛り上げようと、狂言師の野村萬齋さんらのレクチャー公演「狂言でござる」を市民会館で開催しました。

西村和平市長は「播磨国風土記には、1300年前の加西の土地の豊かさや根日女の恋物語の舞台となった玉丘古墳などが記録されています。ふるさと加西の素晴らしさを地域の皆さんと共有し、全国の方にも知ってもらうため、播磨国風土記や根日女を題材にした能と狂言を、

玉丘史跡公園で平成27年5月4日に披露します。1300年祭を一過性のものにするのではなく、歴史に残り、未来につなげていく事業にしていきます」とあいさつしました。

野村萬齋さんは狂言について「舞台があるだけで、セットなどは何もありません。だからこそ自分の声と動作でどんな場面も作り出すことができる魅力があります。狂言を楽しむためには、想像力を使って、前のめりになって見てください」と話されました。



加西市には、播磨国風土記で1300年も語り継がれてきた歴史があり、それは加西市にとって貴重な宝物です。根日女の恋物語を子どもたちが狂言で演じることで、この宝物を次の世代に大切に受け継いでほしい。私も野村萬齋さんも協力していきます。



●藤田六郎兵衛さん(加西市 能・狂言プロジェクト総合プロデューサー)

能の笛方三流儀(一噌^{いっそう}・藤田・森田)の一つ、藤田流十一世宗家。重要無形文化財総合指定保持者。社団法人日本能楽会理事、国際文化交流・協力推進委員(文化庁)、名古屋音楽大学客員教授としても活躍されています。

子どもからお年寄りまでが共感できる親しみやすい舞台にします。歴史ある地域の文化を狂言という新しい形で、皆さんの手によって継承して行ってください。

子どもたちには狂言の素晴らしさを体験してもらい、楽しく演じられるようにサポートしていきます。

●野村萬齋さん(こども狂言「根日女」スーパーバイザー)

祖父・故六世野村万蔵および父・野村万作(人間国宝)に師事。重要無形文化財総合指定保持者。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画・テレビに出演、NHK「にほんごであそぼ」などでも幅広く活躍されています。



■「こども狂言塾」がスタート

平成 27 年 5 月 4 日に新作狂言「根日女」を演じる「こども狂言塾」の小学 5・6 年生 26 人が 4 月 29 日、狂言師の高野和憲さん（万作の会）から発声や動作などを教わりました。

最初は恥ずかしがっていた子どもたちも、高野先生の動きを何度もまね、大きい声を出してセリフを言ううちに、狂言を楽しんでいました。松井陽南さん（北条東小 5 年）は「いい舞台ができるように、先生の話^{ひな}を聞いてしっかりと練習に励みたい」と抱負を語りました。



高野先生の動きに合わせて練習する子どもたち



こども狂言塾応援隊の皆さんと共に集合写真

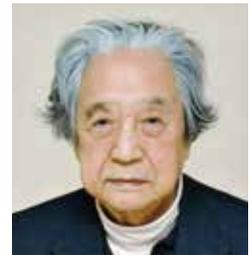
また、「こども狂言塾」を全面的にサポートしていくため、「こども狂言塾応援隊（現在 23 人）」を結成しました。

応援隊の深田哲男隊長（加西市芸能協会会長）は「日本の伝統文化である狂言を共に学び、播磨国風土記 1300 年祭と一緒に盛り上げていけるよう、子どもたちを陰ながら支えていきたい」と話しました。

■梅原猛さんによる「播磨国風土記」をテーマにした能を創作

数々の著書を出されている哲学者で、国際日本文化研究センター所長などを歴任され、スーパー能「世阿弥」を書かれた梅原猛さんに、新作能「播磨国風土記」を書いていただきます。

平成 27 年 5 月 4 日、玉丘史跡公園で開催される播磨国風土記 1300 年祭で新作能が披露されます。ご期待ください。



■能・狂言とは

能・狂言は室町時代から 600 年以上演じ受け継がれてきた、日本を代表する古典芸能です。2001 年にはユネスコの「無形文化遺産」に登録され、歴史的、また現代に生きる演劇としての価値が国内外を問わず広く認められています。

狂言・・・室町時代には即興的に演じられていましたが、江戸時代初期に固定化しました。庶民の日常を題材にした喜劇的な内容が多く、登場人物も怠け者の亭主や口やかましい女房、主人にいたずらする召使など、親しみやすい庶民が登場。人間のごくありふれた日常を「笑い」を通して描き、その笑いは現代に通じるものがあります。また、狂言の言葉（セリフ）は、話し言葉のため、現代人にもわかりやすいものです。



能・・・平安時代の猿楽が、観阿弥・世阿弥親子によって室町時代に大成されました。囃子方（音楽）地謡（コーラス）の伴奏や合唱で、主役（シテ）が舞い謡いながら物語が進行します。歴史上の有名な武将（源義経や弁慶等）や源氏物語などのヒロインが主役となって舞台上に登場し、シテがお面をつけて演じます。演目は 200 曲余。迫力のある鬼が出るもの、しっとりとした女の人が舞うものなど、それぞれに面白さがあります。

さらに、もう 1 つの楽しみとして、美しい「面^{おもて}」や「装束^{しょうそく}」があげられます。現在シテ方には五流ありますが、各家元に伝わる面や装束は国宝級。日本の美学が集約され、飽きることのない美しさです。



播磨国風土記1300年祭プレイベント

平成 27 年 5 月 4 日の「播磨国風土記 1300 年祭」に向け今秋、加西市の魅力発信するプレイベントなどを開催します。詳細が決まり次第、広報かさいでお知らせします。

■播磨国風土記 1300 年祭プレイベント

①日時／10月4日（土） 内容／第2回レクチャー公演「能にて候（仮称）」、地域物産展、ステージイベント等

②日時／10月5日（日）～26日（日）

内容／加西ミュージアム（永田萌さんによる絵画展等）、かさい まちあそび ～かさいを楽しむ50のプログラム～

■「かさい まちあそび ～かさいを楽しむ50のプログラム～」を募集

地域資源を生かした「加西の魅力発見」をテーマに、農業体験やまち歩きなどの体験交流プログラムを通じて、市民や加西市を訪れる多くの方々にも「加西を巡り、楽しむこと」で、加西の魅力を市内外に発信します。

体験交流プログラムの実施を希望する事業所・団体・個人を募集します。応募方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください。

開催期間／10月5日（日）～26日（日）

開催場所／市内全域

実施内容／農業体験、施設・工場見学、秋野菜の収穫体験、陶芸教室、手作りパン体験、そば打ち体験、和菓子作り体験、まち歩きなど

参加費／1プログラム2,000円

※全プログラムのガイドブック製本費等に使います。

募集期間／6月2日（月）～30日（月）

申込先／播磨国風土記1300年事業推進室 ☎④ 8756



稲刈り（イメージ）



酒蔵見学（イメージ）

平成25年度の主な取り組み



ゆかりの地を掲載した「風土記 ゆかりの地マップ」の作成



古代の加西がわかるガイドブック「古代の加西と播磨国風土記」の作成



漫画本「ねむめのとき根日女伝説×『パフェちっく!』」の発行（著者／加西市出身のななじ眺さん）



風土記ロゴやキャッチコピーなどをPRする「のぼり旗」の製作



市内外に風土記をPRするために行った「ラジオ関西ヒストリーウォーク in 加西」の開催



ゆかりの地をプロロードレーサーと自転車で行く「加西を巡るサイクル&トレイン」の実施



国際日本文化研究センターの光田和伸先生による「風土記連続講座」の開講



ゆかりの地を説明した「風土記看板」の設置（13カ所）

発行／加西市 〒675-2395 加西市北条町横尾1000番地 TEL0790-42-1110（代表）

ホームページ <http://www.city.kasai.hyogo.jp>